

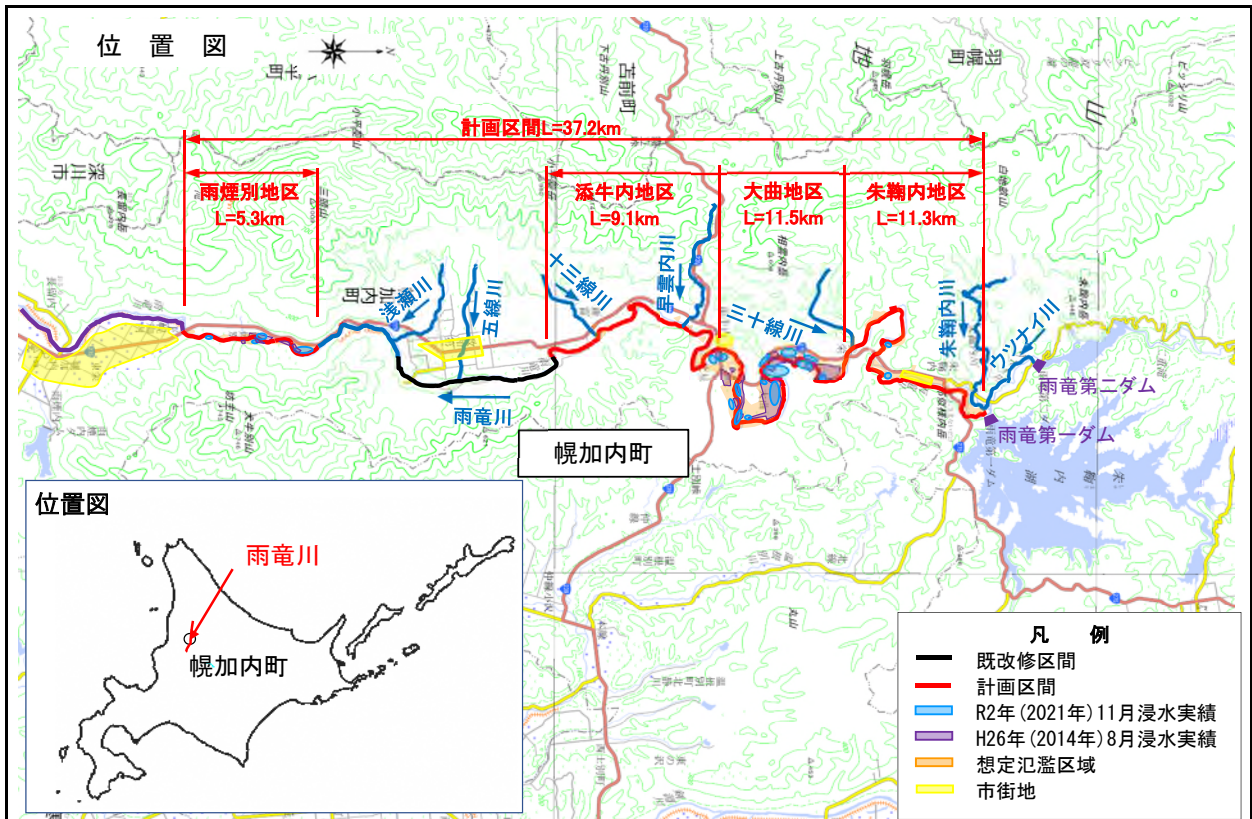
令和3年度(2021年度)公共事業(大規模等)事前評価調査

基準年月日

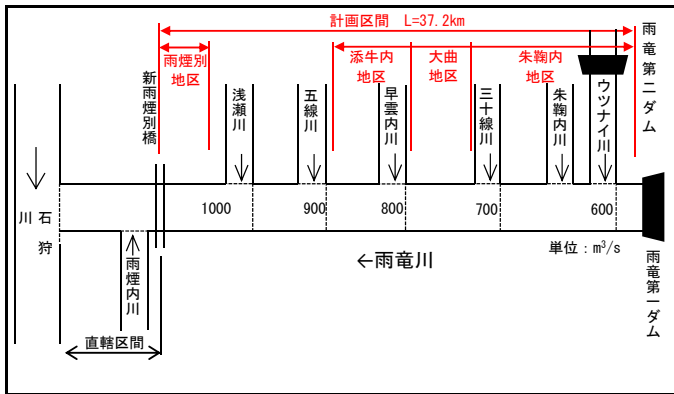
令和4年3月1日

調査番号	08-03	所管部	建設部	作成責任者	建設部土木局河川砂防課長 高橋 浩揮
				担当係	河川計画係(内) 29-323
I 基本事項					
事業種別	広域河川改修事業費(社会資本整備総合交付金)				
地区名	うりゅうがわ 雨竜川	市町村名	幌加内町	事業期間	採択 R5(2023) 完了 R29(2047)
事業費	33,000 百万円	負担割合	国 66.7% 道 22,000	33.3% 11,000	市町村 - その他 -
事業目的・目標	<p>●雨竜川は、石狩川水系石狩川に合流する一級河川で、幌加内町の新雨煙別橋より上流を指定区間として北海道知事が管理している。</p> <p>●指定区間の内、政和市街地等を含む一部区間においてS53年(1983年)から河川改修に着手し、H24年(2012年)までに完成している。</p> <p>●しかしながら、未改修区間である上記区間上下流部においては、H26年(2014年)8月及びR2年(2020年)11月の洪水により、農地浸水の被害が発生している。</p> <p>●このため、当該計画区間の河川改修事業に着手し、堤防の新設や河道の掘削による河積の拡大を行い、浸水被害の防止を図るものである。</p> <p>【アウトカム】等</p> <p>●改修の目標とする規模の降雨により浸水するおそれのある家屋数 24戸→0戸</p> <p>●改修の目標とする規模の降雨により浸水するおそれのある農地面積 496ha→0ha</p>		事業概要	<p>当該計画区間(指定区間起点から上流5.3km及び十線川合流地点から朱鞠内川合流地点の31.9kmの計37.2km区間)において、治水安全度向上のため、堤防の新設や河道の掘削による河積の拡大を行うものである。</p>	
			工事費内訳	<p>【現況】流量=225m³/s 【計画】流量=1,000m³/s 計画延長 L=37,200m 築堤工 L=35,700m 掘削工 L=37,200m 護岸工 L=32,800m 附帯工事 道路橋2橋、頭首工1基 測量設計費 一式 用地費及び補償費 一式</p> <p>計 33,000 (百万円)</p>	
総合計画での位置付け	施策名	大規模自然災害対策の推進		総合計画：大項目	生活・安心
	総合計画：中項目	強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮		総合計画：小項目	大規模自然災害に対する北海道自らの脆弱性の克服
	施策目標	集中豪雨や豪雪、地震、津波等の自然災害に対応するため、公共土木施設の総合的な防災対策を推進し、耐災害性を向上させることにより、住民の生命・財産を守り、国土の保全を図る。		関連する指標	-
II 評価					
1.必要性	<p>●当該計画区間は、一部区間においては過去に改修を行っているが、一連区間としては治水安全度が低い状況にある。</p> <p>●H26年(2014年)8月の洪水により浸水面積257.6ha、R2年(2020年)11月の洪水により浸水面積90.1haの農地浸水などの度重なる被害が発生していることから、現在、国で実施している雨竜川ダム再生事業と連携を図りながら、早急に治水安全度を向上させる必要がある。</p> <p>●当該事業により、幌加内町雨煙別地区、朱鞠内地区などにおいて家屋24戸、浸水面積734ha(うち農地496ha)の被害を防止することができる。</p> <p>●「北海道総合計画」の安全・安心な国土をつくるための社会資本整備に治水対策が位置付けられている。</p> <p>●「北海道強靱化計画」において河川改修等の治水対策が重点化するべき施策に位置付けられている。</p>				
2.適切性	<p>●計画規模は、石狩川水系河川整備基本方針及びH26年(2014年)8月の洪水に対応した雨竜川河川整備計画(大臣管理区間)とも整合を図っていることから、妥当なものである。</p> <p>●河川法第9条の規定により、一級河川の指定区間の管理は知事が行うことになっている。</p>				
3.代替案の検討	●雨竜川河川整備計画(大臣管理区間)に基づく雨竜川ダム再生事業(国で実施)と整合を図り、指定区間において河道整備を行う。				
4.緊急性・優先性	<p>●朱鞠内市街地や第2次緊急輸送道路である国道239号及び国道275号が浸水する恐れがあることから、早急に治水安全度を向上させる必要がある。</p> <p>●近年の度重なる災害発生を受け、流域自治体である幌加内町から早期の事業着手を要望されており、緊急性・優先性が高い。</p>				
5.環境への影響・配慮	●多くの動植物の生息・生育の場として良好な環境であることを踏まえ、工事の実施にあたっては、環境への影響を軽減することにより、良好な河川環境の保全を図る。				
6.妥当性	根拠法令等	河川法、河川法施行令、河川管理施設等構造令			
	その他	北海道総合計画、北海道強靱化計画			
	地域の動向・意向、事業関係手続、コスト縮減の取組				
	【地域の動向・意向】	H26年(2014年)の洪水被害を受け、流域自治体である幌加内町から改修要望を受けている。		【事業関係手続】	
	R4年度(2022年度)に事業計画に係る住民説明会を開催予定。			令和4年度(2022年度)に河川整備計画(指定区間)変更手続を行う。	
				【コスト縮減の取組】	
				建設発生土の有効活用	
7.事業効果	経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)		B/C
	洪水被害防止効果	22,855	建設費	18,806	1.21
			維持管理費	105	
	合計(B)	22,855	合計(C)	18,911	
	備考				
	●「治水経済調査マニュアル(案)」(令和2年4月：国土交通省水管理・国土保全局)に基づき算出している。				
	●経済効果及び費用は、「整備期間+事業完了後50年間」の累計で算出しており、各年度の金額は、算出する基準年(R4)現在の価値に置き換えている。				
	●費用は、現在価値への置き換え、50年間の維持管理費を含むことから、総事業費と異なる。				
8.事業特性による特記事項	<p>【協議・調整状況】</p> <p>・該当事項：直轄区間接続流量の確認</p> <p>・実施状況：協議を行っており、内容について了解を得ている。</p> <p>【その他】</p> <p>・特になし</p>				
III 今後の対応方針					
対応方針	近年災害が発生し、地元から改修要望もあつることや、治水上の必要性・優先性・事業効果も認められることから、新規事業の要望を行うことは妥当である。				
	a	a：要望を行うことは妥当 b：要望に当たって検討を要する c：要望を行うことは妥当でない			

事業名	広域河川改修事業費 (社会資本整備総合交付金)	地区名	雨竜川	着手年度	R5 (2023)
-----	----------------------------	-----	-----	------	--------------



※想定氾濫区域：事業着手時点の河道において、計画の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域
この地図は国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図20万を複製したものである。
「測量法に基づく国土地理院長承認（複製）R3HOF4」
なお、本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。



流域面積	618.5km ²
計画延長	37.8km
氾濫面積	734ha
計画雨量	203mm/3日
計画高水流量	1000m ³ /s
計画勾配	1/900~1/313

